

ヘーベの斑点病（新発生）

令和4年6月、石狩地方において、ヘーベ（品種：「カレドニア」）の葉に黒褐色の斑点を生じ、のちに病斑部中央部が退色する症状が発生した。罹病部からは同一の培養性状の糸状菌が高率に分離された。分離菌を用いて「カレドニア」と同じヘーベ属の品種「ペロニカ・グレース」に接種を行った結果、「カレドニア」と同様の原病徴が再現され、接種菌が再分離された。本菌のPDA平板培地上の培養菌叢は灰色～暗灰色で、V8培地上の分生子柄先端は褐色で膨潤し、分生子を単生した。分生子柄の長さは54.7-239.4 μm 、分生子は、淡褐色～褐色、円筒形～楕円形で先端は丸いか円錐形で乳頭状突起を有し、石垣状、1～2個の縦隔壁と1～7個の横隔壁を有し、大きさは35.4-81.2 \times 15.4-21.3 μm であった。これらの形態的特徴およびrDNA-ITS領域を用いた遺伝子解析の結果から、本菌を *Stemphylium* 属菌と同定し、本病害をヘーベ斑点病と診断した。

（中央農試・石狩農業改良普及センター）



ヘーベの斑点病（中央農試 中島 原図）